

【八戸市教育委員会】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

- (1) 学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成し、児童生徒自身がICTを学びのツールとして自由に選択したりクラウド環境を十全に活用したりできるようにする。
- (2) ICTの特性を最大限に活用して、誰一人取り残すことのないきめ細やかな支援をし、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会や多様な学びの機会の充実を目指す。
- (3) 児童生徒が自他の権利を尊重し、情報を正しく安全に利用できるよう、情報モラルの向上と情報セキュリティ意識の醸成を図るとともに、持続可能な社会の担い手として、積極的に社会に参画する態度の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想の下、以下学校におけるICT環境の充実を図ってきた。

学習者用端末については、令和2年度に国庫補助金（公立学校情報機器整備費用補助金）や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、全16,698台の整備を完了した。

同年、教室への無線LAN整備及び電源キャビネットの整備を実施したほか、当該校内通信ネットワークのためのインターネット回線（1Gbpsベストエフォート）を整備、運用を開始した。

また、指導者用端末についても「学校のICTを活用した授業環境高度化推進事業」等を活用し、令和3・4年度に全1,132台の整備を行った。

<成果>

- ・コロナ禍において、いち早く整備が完了したことで、登校できない児童生徒に対する遠隔（オンライン）授業が行われ、学びの保障につながった。
- ・市教委指導主事が各校に出向いて端末活用に関する要請訪問を行い、授業における活用の土台（GoogleWorkspaceの活用）を構築することができた。

<課題>

- ・GIGA第2期を前にして、端末活用における学級・学校間格差が生じている。その主な要因として、
 - ①多くの実践や有用なサードパーティアプリの開発が進むにつれ、ICTに長けた教員とそうでない教員との間に活用頻度の差が生じていること
 - ②児童生徒の不適切使用や目的の不明確さ、家庭にネットワーク環境が整っていない等の理由から持ち帰りが進まない学校があり、学校間の端末活用の日常化にズレが生じていることが挙げられる。

<展望>

- ・第1期の課題の解消
- ・次世代の校務DXとの連携による働き方改革や学習指導の高度化への対応
- ・円滑な活用の前提条件としてのネットワーク整備

以上のことを通して、個別最適・協働的な学びの充実を図るとともに、誰一人取り残さない学びの保

障に取り組む。

3. 1人1台端末の利活用方策

計画的な維持・更新に取り組むとともに、以下の方向性への推進力を高める。

(1) 学びの質と教師の資質・能力の向上

- ・クラウドを活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実を図るための教職員研修の実施（研修講座・要請訪問等）
- ・文部科学省が掲げる「教育DXに係るKPIの方向性」をもとにした、学校訪問等を通じての具体的な場面や実践例の共有
- ・ICTの特性を生かし、不登校や病気療養等により特別な支援が必要な児童生徒、教育相談等へのきめ細やかな支援の実現

(2) 端末活用を日常化する環境整備

- ・クラウド活用を促進するための必要なセキュリティ対策（情報セキュリティポリシー等）の設定
- ・家庭への端末持ち帰りの推進
- ・デジタル教科書（教材）の普及と活用促進

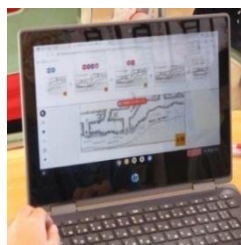


主体的・対話的で深い学びの実現に向けた1人1台端末活用

～「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実～



①インターネット検索

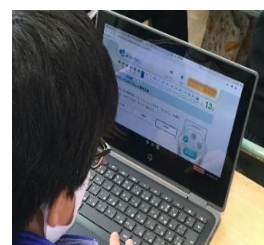


②共同編集

+



③画面共有



④ドリル学習等

「個別最適な学び」を実現するための手立てとしての①インターネット検索や④ドリル学習、各種デジタル教材の日常的な活用と、「協働的な学び」を進めるための手立てとして②共同編集＋③画面共有による活用を図り、ICT（1人1台端末）のもつ可能性を指導に生かすことで、創造性を育み主体的・対話的で深い学びの実現につなげていくことが重要である。